

北原と支援協定のアジルコア社員

交流から新商品のヒントを

人手不足の農家で草取り支援

10・11日、飯山市の北原区に、(株)アジルコアの商品開発室を中心とする6人の社員が訪れ、同社の保養施設でもある同区公民館を拠点に合宿、地区の花弁農家を訪れ、畑約30㍓の草取り作業を手伝った。ことし1月10日に同社と北原区で結んだ相互支援協定に基づくもの。

花卉農家の出沢すみ子さんは、女手一つで約1・5畝の畑で花弁を生産している。ちょうど畑を覆い尽くす雑草の草取りに頭を悩ませていたこともあり、

今回同社からの支援を受けたという。

当日の作業では、スグリ、オミナエシ、サングミズキ、クリスマスローズなどの花が育つ約30㍓の農地で、腰まで伸びていた雑草を手作業で抜き取った。

農業支援に感激した出沢さんは、畑のスグリを使い、自ら作ったジャムをお礼に手渡していた。

同社の池田晃一さんは、「当社のモットーは、『人に役立つ商品作り』なので、きょうのような社会貢献活動や地域住民との交流の中で、新商品の開発のヒントを得たい。慣れない仕事で疲れたが、北原区では人手不足で困っている農家が多いと聞き、来年は支援する人数を増やしたい」と話した。

北原区ふるさと暮らし支援委員会の小林栄一委員長は、「先週の祭礼の労力支援に続くもので、感謝に絶えない」と謝辞を述べた。



北原の花弁農家で草取りする社員